

生駒市市民自治検討委員会設立準備会（第16回）議事要旨

日時：平成17年4月27日（水）18：00～19：00

場所：市役所404会議室

出席委員（敬称略）：相川、中川、野口、上埜、金谷、鶴田、森

1. 平成16年度報告書について

事務局：本日の案件は、平成16年度報告書案の変更、そして、報告書ができあがれば、市長への報告を兼ねた意見交換会を開催したいので、その日程の調整をしたい。（報告書案の修正箇所の説明）前回から宿題となっていた市内で活動実績のある各種団体については、分野ごとに審議会等への参加状況を整理したので、漏れがあれば追加していきたい。これを踏まえて検討委員会の構成を検討して頂きたい。

中川委員：これで全体が見えてきた。ほぼこれでいいのではないかと思う。何かお気づきの点があればお願いしたい。

相川委員：表紙に準備会の名称を明記した方が良い。今回追加した「むすび」の位置づけは「5-3」ではなく、大きな「6」にしてはどうか。

中川委員：ご指摘の通りである。表紙の下の方に準備会の名称を入れ、「むすび」は「6」とする。報告書の修正はいつまで可能か。

事務局：市長に提出する日の20日前ぐらいであれば十分可能である。

中川委員：それでは日程を先に決めた方が良い。5月25日午後でどうか。また、時間帯は13時から14時でどうか。参加はこのメンバー全員でお願いしたい。報告書にご意見があれば、今月中に事務局までお願いしたい。

事務局：すぐに連休に入るので、ご意見の期限はある程度弾力的に対応させて頂きたい。

中川委員：報告書の根幹に関わる部分はこれで良いと思う。次に、各種団体の参加状況について、まだ抜けている団体はないか。

事務局：気になっているのは、ここに入っていない障害者、外国人の団体であり、これらの団体についてはさらに探していきたい。

森委員：近鉄のように、まちづくりに影響力のある企業にも声をかけるべきではないか。

金谷委員：近鉄は市の審議会に入っているのではないか。

事務局：近鉄はまちづくりに影響があるので、都市計画審議会に入っただいている。

中川委員：障害者団体、外国人の団体へのパイプはあるのか。団体があるのであれば、ぜひコンタクトして欲しい。団体の代表者でなくとも良いので、団体に委員を推薦してもらえば良い。

金谷委員：以前、外国人の方について教育委員会の関係でセイセイビルで集会があったのでは。

事務局：市、教育委員会の方へも来られている。

中川委員：外国人の団体については、教育委員会もしくは国際交流担当課に確認してもらいたい。障害者団体にも当たってもらいたい。また、女性の団体について、地婦連の他にも、女性の人権に取り組んでいる団体もあるのではないか。

事務局：女性参画計画をつくった時に、女性団体の意見を聞いたりしていると思う。それほど大きな規模ではないが団体がある。

中川委員：担当課で人選してもらう必要があるのではないか。

鶴田委員：女性センターもある。

中川委員：女性センターがあるのであれば、なおのこと推薦してもらう必要がある。誤解がないようにお願いしたいが、もちろん地婦連も必要であるし、一方で専業主婦でない女性も声も聞く必要があるということである。

金谷委員：障害者の「かざぐるま」はどうなのか。

事務局：それは施設の名前であり、障害者の団体もある。そこに相談すればいけると思う。

金谷委員：商工業のところで、商工会議所の青年部と青年会議所があるが、これは両方ともあるということか。

中川委員：これらは別の組織である。商工会議所は法律に基づく団体、青年会議所は任意団体で、それぞれ性格も構成メンバーも違う。また、警察と郵便局は、地域の防災、安全についてコミュニティ部会で助言してもらおうという意味で入ってもらうべきではないか。消防団はどうか。市内に消防団はどれだけあるのか。

事務局：消防団は4分団ある。地域別に4つに分かれている。

中川委員：消防団は、将来的には入ってもらいたいと思うが、この段階で入るのかどうかはペンディングとしたい。ただし、警察と郵便局は入ってもらった方が良い。「その他」で「人権施策審議会」とあるが、これは審議会そのものではないのか。

事務局：人権という視点をきちっと押さえる必要があるという思いで横滑りということである。

中川委員：その点では、部落解放同盟はどうか。旧同和地区とそれ以外の地域の交流はこれからの課題になってくると思う。

森委員：生駒は人権宣言都市にもなっている。

金谷委員：同和という言葉は、人権という捉え方に変わったのではないか。

中川委員：人権という点で抜けているのは子供と同和であり、これは対応した方が良い。

森委員：外国人の方について、生駒市の教育委員会に外国人の先生が2人来られていると聞いた。そういう方は2年くらい生駒で生活されるので、旅行者ではなく、日本の生活になじんでいる方である。候補になるのではないか。

中川委員：1人では孤立するので、外国人枠を設けるのであれば2～3人とするべき。

相川委員：マスコミの方も入れてはどうか。県の情報公開審議会では奈良新聞に入ってもらった。

野口委員：KCNはどうか。生駒市との関連もあるし、広報での役割も期待できる。

中川委員：各部会で検討委員会本体から出るのは3人ぐらいにして、全体会を構成し、それ以外のメンバーは専門部会の委員という位置づけとし、委員を2通りにしてはどうか。

野口委員：市民祭りのやり方がそうである。

事務局：この報告書では、部会メンバーは基本的に検討委員会委員を中核とし、それ以外のメンバーも可能としているので、それでいいと思う。そのメンバーの範囲をどうするかについて、もう一度きちっと検討する必要がある。庁内の他の課にも照会をかけたいので、少し時間を頂きたい。

中川委員：2次元でも問題があるので、3次元の視点が必要。市民の生活分野別のバランス、世代別のバランス、市民の特性別、特に人権の各分野の特性別のバランス、の3方面でチェックすれば

大丈夫である。どこかが抜けていると指摘されるのが一番困る。

事務局：これができあがって、首長と意見交換、報告をして頂いた後、表に出していきたい。広報誌、ホームページに掲載するとともに、概要版をつくり、タウンミーティングなどで配りたい。概要版はどのくらいのボリュームにすれば良いか、目安を頂ければと思う。

中川委員：シンポジウムの内容は詳しいので、縮めるのは可能。会場アンケートの集計結果は不要で、庁内アンケートもなくて良いので、だいぶ短くなる。アンケートは特徴のあるところだけを紹介するという手もある。

事務局：それでいけば 15 ページぐらいはカットできるので、20 ページぐらいになる。それぐらいをベースとして作成したい。概要版は、今後 P R 用に使うという位置づけである。

森委員：「むすび」の下から 5 行目からの 2 行の部分であるが、市民から幅広く意見を聞く具体的な手段について、新しいメンバーが決まる前に、この段階で市民の意見をさらに吸い上げる方法を打ち出せないか。

金谷委員：タウンミーティングの開催などについて、先に進めていくのか、検討委員会の設立後にやるのか。

中川委員：全小学校区別のタウンミーティングとなると、この準備会でそこまでやるのはしんどいのではないか。検討委員会の設立に際して、各種団体の代表者の方には、事務局から趣旨、経緯等を十分に説明しておいて欲しい。過去の経験でも、委員会に何も知らない人が来るというケースが多い。また、公募市民の中にも、文句を言うためだけに来る市民もいるが、それはしたくない。参加者が企画立案までやるということをしっかり説明しておいて欲しい。市民公募についても、公募枠を決めていただいた上で、このメンバーによる選考が必要で、その結果を説明する責任もある。その上で、意思統一のために、メンバー全員を対象とした研修が必要である。

事務局：行政としても、市民活動推進課だけでは対応できないので、早くプロジェクトチームを立ち上げ、検討委員会のフォロー体制に入ってもらいたいと考えている。また、この準備会は最終報告の提出で一旦形をつけて頂きたいと考えている。その次に検討委員会を立ち上げて、今後の具体的な進め方は、検討委員会で話し合ってもらいたいというイメージをもっている。

中川委員：了解した。プロジェクトチームは、どのような構成になるのか。

事務局：まず、関連性のある部署をおさえて、それを中心に選びたい。充て職では職員が動かないので、動く人材を集めていきたいと考えている。

中川委員：まず、そのメンバーとなる職員への研修が必要。なぜこれをやるかということから押さ

えていく必要がある。

事務局：できれば中川委員にプロジェクトチームの研修をお願いしたい。

中川委員：承知した。行政側が体制をつくられるということなので、私たちもお手伝いさせて頂きたい。併せて、検討委員会メンバーの合同勉強会も必要である。先進都市の事例などを学ぶとともに、お互いの意思を確認しておく必要がある。

鶴田委員：市民自治については、生駒市の一部のところで行われるのではなく、全体での動きを希望している。その際に、現役世代をどれだけ取り込めるかについて少し懸念している。子育てネットワークなどに声をかけるということであるが、小さな子どもがいれば、どうやって参加するかという不安がある。どういう形で会議が行われるか、会議の頻度、時間帯などの情報を提供して欲しい。意識をもっている人たちが幅広く参加できる体制づくりをお願いしたい。

中川委員：それはよくわかる。現実には夜間の開催が増えると思う。

鶴田委員：夜間になると、小さなお子さんがいると参加しにくい。そのへんのフォロー、託児ができるかなどの情報が欲しい。

中川委員：託児が必要であれば、検討する必要がある。

鶴田委員：以前、京都の八木町のまちづくりで、幹事会委員として参加したとき、行政の方が多数の日程調整などをスマートにされていた。一般の市民が議員さんなどの有力者と同じように、議論に集中できるような配慮があれば参加しやすい。

中川委員：会議の運営については、部会単位でうまくやれば良い。全体会の日程は多数決で決めることになるが、必ず欠席者へのフォローがあれば良いと思う。

2. その他

中川委員：会議録はホームページで公開しているが、市民の反応はどうか。

事務局：2～3人から意見があった程度である。かなり情報公開をしているが、そこまでもって行く動機付けが弱いように思うので、さらに考えていかないといけない。今後もすべてオープンにしていきたいと考えている。

中川委員：意見がないというのは、我々がしっかりとした議論をしているからということも考えられる。

次回の準備会は、5月25日(水)13時から14時で開催することとなった。なお、日程に変更があれば、事務局から連絡する。

以上